

ときのアレコレ

Collection - ときコレ

(自然薯)

土岐市の山野にも自生する自然薯(じねんじょ)は、ヤマノイモ科に属する日本原産のつる性植物です。イモは粘りが強く、古くから滋養強壯食として食されてきました。また、消化酵素をたくさん含んでいることから、速やかな消化を助ける作用もあります。

自然薯の成長は、新生イモが発芽を始めると前年のイモである親イモが栄養を新生イモに補給し、代を引き継ぐように親イモは朽ちてしまいます。これを繰り返し自然薯は肥大していきます。

土岐市ではお正月の2日、自然薯をすりおろした“とろろご飯”を食べる習慣がありますが、お正月にいただくとろろご飯には、ご馳走ちそうを食べたお腹を休めるほか、家系が末永く続くことを願う気持ちが込められているのかもしれません。

「食」

特集 第55回土岐市美術展

- 06 市政情報
年末・年始のごみなどの収集／融雪剤の配布／
景観計画・景観条例案の縦覧／ペットマナー
は大丈夫？／耐震診断費用の助成／特定健診
などの案内／平成25年成人式典
- 08 情報ひろば／土岐市公民館だより
- 10 ときめきの瞬間
- 12 読者コーナー
- 13 土岐市教育『夢・絆』／給食センター掲示板
- 14 男と女のいきいきコラム／地域福祉を考える
- 15 健康ガイド
- 16 陶史の森だより

市長コラム

観光がつなぐもの

土岐市には自然が多く残っています。市の北部には土岐川が流れ、南の愛知県境には三国山があり、普段の生活の中でも季節の変化を感じることが出来ます。

先月、恒例となった「曾木公園もみじライトアップ」が行われ、名物の逆さ紅葉を目当てに訪れた多くの観光客で賑わいました。13年前に地元の有志の方が始めたライトアップは、今では関東・関西地方からのツアー客など、期間中に約3万人の来場者を集める紅葉の名所となりました。

曾木公園の紅葉ライトアップは、土岐市の誇る観光名所ですが、その素晴らしさは、地域の皆さんが支えているところにあると感じています。土岐津町高山や妻木町でも、地域の皆さんが史跡や自然を生かしたまちづくりに取り組んでおられます。

近年、「エコツーリズム」と呼ばれる自然や文化など地域にある資源を生かした観光が注目されています。レジャースポットのような派手さはなくても、その土地の観光資源を介する、地域の人と訪れる人との交流が今の時代に求められているのかもしれない。

市では現在、観光振興計画を策定しています。地域の観光資源を生かし、交流人口を増やす取り組みを支援できればと考えています。

土岐市長 加藤靖也